

意見書案第6号

地方単独事業に係る国民健康保険の減額調整措置の見直しを求める意見書

今国会において「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律」が成立し、国保の財政基盤の強化や都道府県による財政運営に向けて具体的な改革作業が始まるところである。

国保改革に当たっては国と地方の協議により、地方単独事業に係る国庫負担調整措置の見直しなどが今後の検討課題とされたところである。

一方、地方創生の観点から人口減少問題に真正面から取り組むことが求められており、全国の自治体では単独事業として小児医療費の助成制度の拡充などに取り組む事例が多くみられる。

更に、平成26年度補正で用意された国の交付金を活用し、対象年齢の引上げなどの事業内容の拡充に取り組む自治体も報告されているところである。

よって逗子市議会は国に対し、全ての自治体で取り組まれている小児医療の助成制度など単独の医療費助成制度に対する国の減額調整措置について、次のとおり早急に見直しを行うよう強く要望する。

- 1 人口減少問題に取り組む、いわゆる地方創生作業が進む中、地方単独事業による子供等に係る医療費助成と国保の国庫負担の減額調整措置について、早急に見直すこと。
- 2 国においては、少子高齢化が進行する中、子育て支援、地方創生、地域包括ケア等の幅広い観点から実効性ある施策を進めることが必要であり、そうした観点から子供等に係る医療の支援策を総合的に推進すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成27年6月19日

逗子市議会